

「第2期滋賀県スポーツ推進計画」に基づく施策の実施状況について

(平成30年度実績)

第1 第2期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画期間とする「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定した。

目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 ～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

基本方針

- I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- II スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

政策

- 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- 2 スポーツの持つ多様な価値の共有
- 3 スポーツ施設・環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- 6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

計画期間

平成30年度～令和4年度 (5年間)

第2 施策の実施状況のまとめ

【基本方針 I】 スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

■生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実（政策1）

【指標の状況】

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率	男性 35.6%(H28) 女性 36.8%(H28)	男女とも 65%以上	男性 39.7%(H30) 女性 40.0%(H30)	男性 13.9% 女性 11.3%

出典：平成30年度滋賀県スポーツ実施状況調査

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
子ども（男・女）の1週間の運動・スポーツ実施時間（※土日を含み、平日の授業を除く）【小学5年生】	男子 590.7分(H28) 女子 347.2分(H28)	男子 625分 女子 382分	男子 586.6分(H30) 女子 341.7分(H30)	—

出典：児童生徒の体力・運動能力調査等報告書

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1%(H29)	65%以上	※平成30年度は調査未実施	—

【主な施策の実施状況】

- 県民の誰もが参加できる「滋賀県民総スポーツの祭典」を開催し、158の競技・種目等にのべ34,355人が参加した。

【評価】

県民のスポーツに参画する機運の醸成に資するとともに、健康づくりや地域づくりにつながる事ができた。

【課題】

より一層、大会PRを積極的に行い、競技の盛り上がりやスポーツの裾野拡大につながる魅力的な大会にする必要がある。

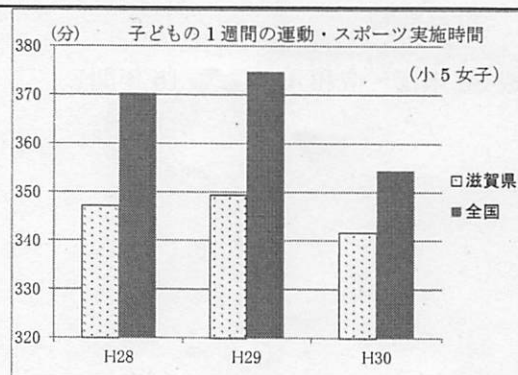
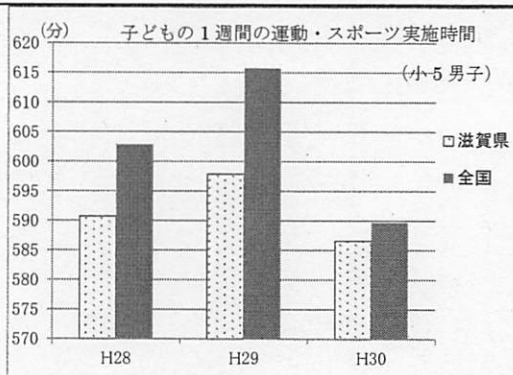
- 小学校では、平日の運動時間向上に向けて「健やかタイム」や「チャレンジランキング」を各校で実施し、年間を通して児童の運動（遊び）の習慣化を図った。

【評価】

すべての学校で体力向上委員会を設置し、健やかタイムを計画するほか、県内54校、11,027名の児童がチャレンジランキングに参加した。

【課題】

県内各地域で子どもの運動習慣アップに取り組めるよう、小学校と系統的な接続・連携が必要である。



■スポーツの持つ多様な価値の共有（政策2）

【指標の状況】

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
しがスポーツ大使の就任数	26 者 (H28)	50 者以上	34 者 (H30)	33.3%

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
アスリートを採用した 県内企業数	32 社 (H28)	45 社以上	32 社 (H30)	0%

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
スポーツボランティア登録 者数（本県ボランティア登 録システム利用）	334 人 (H28)	2,000 人以上	1,789 人 (H30)	87.3%

【主な施策の実施状況】

- しがスポーツ大使を新たに5者委嘱し、スポーツイベントや体験教室等に大使を招へいし、スポーツの魅力発信に取り組んだ。（しがスポーツ大使は29人および5団体の計34者）

【評価】

本県ゆかりのトップアスリートやスポーツチームにしがスポーツ大使に就任いただくことで、スポーツの魅力をより広く発信することができた。

【課題】

しがスポーツ大使を活用したスポーツの機運醸成を一層図るため、しがスポーツ大使からのメッセージや活動等を積極的に情報発信する必要がある。

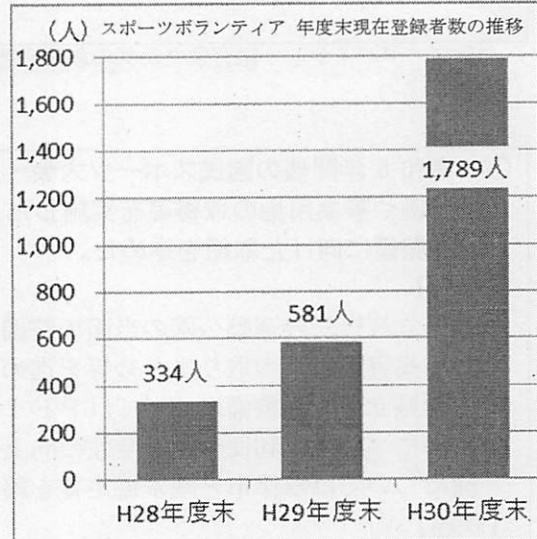
- 各種スポーツ大会の運営に携わるボランティアの育成に向けて民間事業者に事業を委託し、幅広い分野でのボランティアの人材確保と資質向上を進めた。

【評価】

大規模スポーツイベントの開催を視野に（公財）滋賀レイクスターズに事業を委託し、「ゲームコンダクターSHIGA」の名称でボランティアの人材確保と資質向上を進めた結果、登録者数は1,789人となった。

【課題】

ボランティア登録者が実際の活動にスムーズに参加できるよう、企業の事業所単位での参画の呼び掛けや、教育事業との連携を図るなどの工夫に努める必要がある。



【基本方針Ⅱ】スポーツの力で「元気な地域」を創る！

■スポーツ施設・環境の充実（政策3）

【指標の状況】

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	267 人 (H28)	370 人以上	229 人 (H30)	—

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
県内公共スポーツ施設の利用者数	6, 617, 409 人 (H26)	730 万人以上	7, 220, 884 人 (H30)	88.4%

【主な施策の実施状況】

- 総合型クラブとの連携を図るため、広域スポーツセンター事業として総合型クラブの育成・支援や地域スポーツ指導者研修会を実施した。

【評価】

クラブアドバイザー*の派遣や、総合型クラブ間での情報共有の場を設けるなどにより総合型クラブの育成・支援を行うことができた。また、研修会の開催を通じて、課題等を共有し、自主的な運営を促すことができた。

【課題】

総合型クラブ未設置団体（2町）への設置支援を行う必要があるほか、総合型クラブの運営を担う後継者の確保や指導者を育成する必要がある。また、総合型クラブの登録・認証制度について、理解促進や適切な実施体制を図る必要がある。

*クラブアドバイザー：総合型クラブの創設や運営、ネットワークの構築等を支援するため、情報提供や指導助言等を行う。

- 令和6年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向け、県立彦根総合運動場の整備や事業用地の取得等を実施した。また、新県立体育館整備、琵琶湖漕艇場再整備やプール整備に向けた取組を進めた。

【評価】

県立彦根総合運動公園の当面の整備に必要な事業用地を取得したほか、第1種陸上競技場の建築実施設計の取りまとめ等を進めることができた。

新県立体育館整備についてはPFI方式による事業実施に向けた取組を、琵琶湖漕艇場再整備については利便性・安全性の向上等が図られるよう設計を実施するとともに、プール整備については草津市と基本協定書を締結した。

【課題】

県立彦根総合運動公園の整備については、周辺住民の意見を聞くとともに、彦根市や競技団体と調整を図り、着実に業務を進めていく必要がある。

新県立体育館整備、琵琶湖漕艇場再整備、プール整備については、事業を効率的かつ着実に実施する必要がある。

■スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化（政策4）

【指標の状況】

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
民間団体等の実施するスポーツイベントへの後援件数	155 件 (H28)	200 件以上	144 件 (H30)	—

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
スポーツレクリエーションを目的とする観光入込客数	1,002 万人 (H28)	1,200 万人以上	1,087 万人 (H29)	42.9%

出典：平成 29 年滋賀県観光入込客統計調査

指標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844 人 (2017 シーズン)	10 万人以上	95,753 人 (2018 シーズン)	89.1%

【主な施策の実施状況】

- 滋賀レイクスターズのスポンサーとして、ユニフォームに滋賀県の広告を掲出するとともに、アウェーゲームでブースを設置し、本県の PR 活動を行った。

【評価】

プロスポーツチームと連携し、トップアスリートやスポーツチームが持つ集客力や発信力を通じ、滋賀県の魅力を幅広く発信することができた。

【課題】

滋賀レイクスターズだけではなく、県内を本拠地とする他のスポーツチームも含めたスポーツ振興等を検討していく必要がある。

【基本方針Ⅲ】スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

■国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大（政策5）

【指標の状況】

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
国体総合順位	39 位 (H29)	8 位以内	31 位 (H30)	25.8%

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
県障害者スポーツ大会の参加者数（実数）	773 人 (H29)	1,000 人以上	757 人 (H30)	—

【主な施策の実施状況】

- 次世代アスリート発掘育成事業として「滋賀レイキッズ5期生」を認定し、修了生のうち16名を、競技力体験プログラムをきっかけに始めた競技につなげた。また、県内の大学にパラスポーツチャレンジプロジェクトを委託し、知的障害バレーボールチーム創設に向けた練習会を実施した。

【評価】

次世代アスリート発掘育成事業の修了生の中から全国優勝やU-17代表メンバーに選ばれる選手が出ている。また、パラスポーツチャレンジプロジェクトについては、知的障害バレーボールの選手を確保することができた。

【課題】

国体総合順位については、安定的に得点を獲得している競技や獲得得点の大きい団体競技に対する支援などの戦略的な強化が必要である。また、県障害者スポーツ大会の参加者数拡大に向け、大学との連携や総合型クラブを中心とするチーム育成等に取り組む必要がある。

■地域の特性を活かした大会レガシーの創出（政策6）

【指標の状況】

指 標	策定時	R4 目標	進捗状況	達成率
オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を深めた市町数	3 市 (H28)	6 市町以上	5 市 (H30)	66.7%

※再掲省略（スポーツボランティア登録者数、成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率）

【主な施策の実施状況】

○ シンガポールと甲賀市、スペインと彦根市と本県が共同でホストタウン登録を行った結果、本県でのホストタウン登録は5市となり、スポーツ等を通じた交流を推進した。

【評価】

オリンピック代表チームを招いての国際試合の開催等、スポーツや文化の交流事業に取り組むことができた。また、「東京2020オリンピック聖火リレー滋賀県実行委員会」を立ち上げ、本県における聖火リレーのルート概要等の検討を行うことができた。

【課題】

事前合宿を含めてホストタウン相手国との間で、県民への広がりをも十分に考慮しながら、スポーツにとどまらない幅広い分野の交流に引き続き取り組む必要がある。

平成30年度末 ホストタウン登録自治体・相手国

登録日	登録自治体	相手国	競技	昨年度実績	事前合宿
H28.6.14	滋賀県大津市	デンマーク	ボート	デンマーク選手と地元中高校生徒との交流 同選手のマンローイング大会への出場	—
H28.6.14	滋賀県米原市	ニュージーランド	ホッケー	ニュージーランド代表チームによるホッケー教室の開催	—
H28.12.9	滋賀県守山市	トルコ	ゴールボール 視覚障がい者柔道	ゴールボール代表チームとの交流事業 視覚障害者柔道関係者と地元小中学校との交流	○
H30.4.27	滋賀県甲賀市	シンガポール	パラスポーツ	シンガポールパラリンピック関係者が地元中学校で講演、パラスポーツ体験会を実施	○
H30.8.31	滋賀県彦根市	スペイン	ハンドボール	スペインハンドボール協会関係者と地元高校との交流事業を実施	○

○ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催準備委員会において「開催基本構想」（案）を作成し、両大会の愛称・スローガンを決定した。また、6競技の会場地市町を内定したほか、市町が行う施設整備の支援を行った。

【評価】

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に係る開催準備委員会については、所期の活動を概ね行うことができた。

【課題】

競技会場地はすべての競技会場の内定には至っていないことから、今後も市町、競技団体との調整を続けるとともに、各競技会の開催に向けた準備が円滑に進むよう、市町、競技団体に対する支援を行う必要がある。